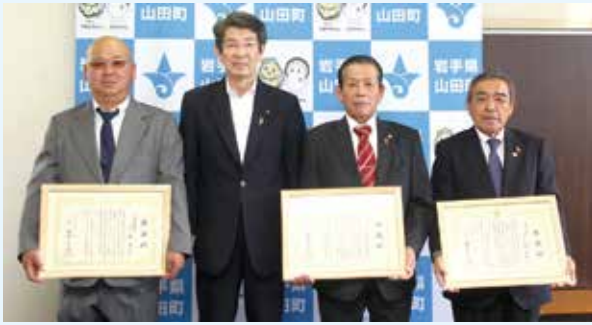


オランダ島施設整備事業に多大な貢献

5団体に感謝状を贈呈

7月31日、役場特別応接室でオランダ島施設整備事業の推進に尽力された団体に対し、感謝状が贈られました。

感謝状が贈られたのは、心の絆の会（阿部吉衛会長）、陸中ライオンズクラブ（阿部吉衛会長）、大杉神社神輿会（上林



贈呈式に出席した3団体（左から、大杉神社神輿会、心の絆の会、陸中ライオンズクラブ）

善博会長）、航空自衛隊第37警戒隊（伊藤恒和隊長）、盛岡チャリティフェス実行委員会（沖田俊之代表）の5団体です。この5団体は、東日本大震災大津波により損壊したオランダ島の再整備・利用再開に向け、オランダ島とその周辺海域のがれき除去や清掃作業募金活動による寄付など、長期にわたって町の事業推進に大きく貢献されました。

佐藤信逸町長は「オランダ島海水浴場が10年ぶりに開設。これも皆さまの崇高な精神のおかげ。感謝と敬意を表する」と、感謝の言葉を贈りました。感謝状を受けた阿部吉衛会長は「町の観光事業の発展のため、これからも活動を継続していきたい」と、さらに意欲を見せました。

温かい支援に恩返し

「ありがとう」の思いを込めて

7月27日、復興がんばっぺし山田フェスタ実行委員会（川端信作委員長）から九州地方豪雨災害への支援として義援金（5万円）が町へ届けられました。

これは、同委員会が7月25日に開催した「第7回復興がんばっぺし山田フェスティバル」で東日本大震災の被災時に全国各地から支援いただいたことへの感謝の思いから募金呼びかけ、賛同した観客などから集められたものです。

この義援金は、日本赤十字社を通じて九州地方の豪雨災害で被災された方々に送られます。

山田町民文芸広場

風吹いて 梅の実落ちる 土の音
ころろざし
高き花あり 高からぬ
花ありわれの
わがまな眼に

水打てば

庭を吹き来る 風涼し
ふいにひと声
ウグイスの鳴く

父母の背を 洗ふが如く 墓洗う
行くさ来さ
人は触れゆく 風化して
読みがたき文字
南無阿弥陀仏

内館 洋一（飯岡・77）

梅雨曇り
しばし晴れ間の 梅雨明かり
雨過ぎ去りし
薄日射したる 夏の夕

沼崎 悦子（船越・78）

風物詩・
清流せせらぎの音・
清らかな夏の風鈴の音と共に

花・
笑顔の花が満開に咲いて。
素顔の花が満作に咲いて
シュガー（船越・42）

町長室から

新型コロナウイルス感染症の影響が我が家にも出ている。私は31歳で結婚し翌年に長男が生まれた。現在32歳の長男を筆頭に30歳の長女、28歳の次男の3人の子どもがいる。何事も順番どおりにいかないのが世の常で、遠方に住む次男が最初に結婚し、今年の4月にはめでたく女兒が誕生した。次男は娘の特別定額給付金が支給され、ことのほか喜ぶことになったが、それ以上に喜んだのは65歳にして初めての孫を授かった私たち夫婦である。しかし、この喜びに大きく立ちはだかったのが新型コロナウイルス感染症である。ただでさえ離れて暮らすおじいさんと初孫をますます遠ざけてしまった。初めての対面はいつになるやらと気を揉むばかりである。ひな鳥は最初に自分の目に飛び込んできたものを親として認識するらしいが、おじいさんと認識されるように一日も早く会いたいものだ。

山田町長 佐藤 信逸